

## 異文化を理解し合える体験

加藤 緩凧

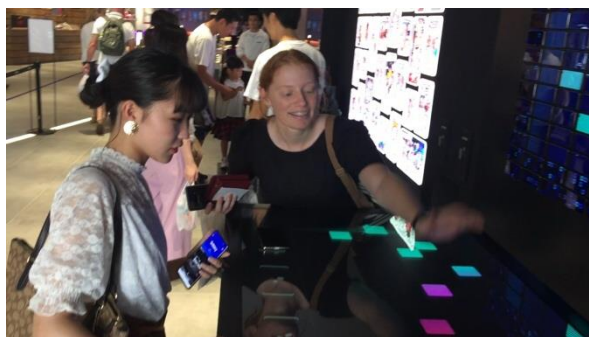
私はこれまで、ベトナム、アメリカ、韓国のゲストを受け入れ、オーストラリアは去年交換ホームステイを経験したので、今回も受け入れを希望しました。

受け入れ当日、私のゲストの預け荷物が輸送中に紛失してしまうというトラブルがあり、ゲストと対面した時にはとても疲れた様子でした。貴重品しか持っていなかったため、まずは生活用品を揃え、車中では気分を紛らわすように彼女の趣味である乗馬の話や雑談をして自宅に向かいました。夕食は殆ど食べず、その日は早く休んでしまいました。

翌朝元気になった彼女を見て安心し、祝日だったので1日原宿を案内しました。動物が大好きという彼女は、ガチャガチャの専門店でもハムスターのぬいぐるみを当てて嬉しそうにしていました。竹下通りを食べ歩きしながら通り、GALAXY ショールームでVRや撮影などを体験しました。その間に、紛失していた荷物が見つかったと航空会社から連絡があったので、心置き無く原宿観光を楽しむことができました。



原宿観光(竹下通り)



GALAXY ショールームでのゲーム体験

次の日から私と一緒に学校へ通いました。家族に車で送迎してもらう日と、通学を体験してもらうため電車とバスを利用する日も設けました。彼女は現地で日本語を勉強しているようですが、やはり全て日本語での授業は難しく感じたようです。私の学校は、外国人国籍の生徒向けに、放課後に日本語教室があり、彼女も楽しく参加できたようでした。帰りはカフェで、事前にお互いに考えていた質問でディスカッションを行いました。彼女は環境問題に関心があるようで、今の日本が今後行うべき行動は何かなどを話し合いました。翌朝にも持ち越して、意見交換をしながら通学しました。



高校での授業体験



ディスカッション

自宅では、彼女が好きなチキンを毎日夕食で出しましたが、サラダや刺身など生物は食べませんでした。醤油や料理酒のボトルを使って「調味料クイズ」をして、日本語の名称を教えました。「酢」が一文字で面白かったのかすぐ覚え、連呼していたのでみんなで笑ってしまいました。

様々な会話をしていく中で、日本の具体的な場所や地域などはあまり詳しくないようでしたが、来年は関西方面に行く計画を立てているとのことで、純粋にジャパニーズカルチャーを楽しんでくれていることに嬉しく思いました。



夕食の様子



調味料クイズ

最終日の夜は、カラオケに行きフェアウェルパーティをしました。彼女は少し緊張気味に日本語で自己紹介をしてくれました。カラオケは初めてだったようですが、途中からはひよっとこのお面を付けて立って歌ったり踊ったり、はしゃいでいました。帰宅後、彼女がオーストラリアから持ってきてくれたたくさんのお土産をもらいました。コアラのぬいぐるみやキッチンセットなどどれも可愛かったです。私たち家族も、写真入りのメッセージカードを作り、ミニ調味料やお菓子とともにプレゼントしたら、彼女が泣いてしまい、みんな



フェアウェルパーティーの様子

で別れを惜しみました。

ホームステイを振り返り、毎日私たちが当たり前のように食べている物、行っている場所も、ゲストにとっては初めての体験であることも多く、戸惑いがあることも当然なので、無理強いせずに、身近に出来ることでお互いに負担にならないようにすることが大切だと感じました。

そして今回は日程的に大学入試の直前で、英語での試験があったので、この期間は英語を日常生活で使うことを目標にしていました。その上で彼女との交流によって異文化を理解し合うことの大切さや、国際交流の楽しさを改めて感じることができました。